

統計ソフトを利用した統計教育 --- 早稲田大学 MNC での事例  
「コンピュータによる統計処理 : SAS を利用した統計解析入門」  
林 篤裕(大学入試センター)

1) 講義の特性

通年 30 回程度

学部、学年 : バラバラ、テーマもバラバラ(だろ)

基礎統計量から多変量解析まで

初回 : 講義内容の周知、リクエストの受付、データ収集(講義用)

2) 講義内容

理論面 : モデル、概念

コマンド面 : SAS プログラム

解釈面 : 解析結果(出力)

個人毎に収集させたデータを対象とした演習やレポート作成

配布資料は Web 上で公開 : いつでも、どこからでも閲覧可能 : <http://peter.rd.dnc.ac.jp/~ice/kougi/>

3) 演習 : 理解する上で絶対必要

小さな演習 : 毎回

宿題 : その回の復習

実践 : 教えた内容を各自のデータを対象に

レポート作成 : 学期毎

発表会 : プレゼンテーション、他人の解析事例を知る、コメントを付ける

最終レポート : 個人毎に収集させたデータを対象とした解析

4) 学生の感想

演習、復習の必要性

Web ページの有用性

やり遂げた学生には比較的好評?

適度な緊張感 : スピード

5) 雑感

計算機の発展 : 「統計学の発展に寄与していない」、「足を引っ張ってる」と言われる??!!

====> 計算機を道具として利用した講義があるのではないか?

例題の親和性 : 学生の興味あるテーマ(学部毎、個人毎)、興味の持たせ方

式の必要性 : 最小限 : モデル、考え方、概念 <==== 統計活用者を対象とした場合には  
講義後のサポート(アフターサービス?) :

学生時代のモチベーションと就職後の現実問題

実際に現場で直面した時に支援 : コンタクト先の提示(最終回)、連絡の取りやすい環境

テキストの保存 : Web の継続開設